



Doctoral & Master's Program in

**Nursing Science**

# 2017年度 年報

2017 ANNUAL REPORT OF NURSING SCIENCE



筑波大学大学院人間総合研究科  
看護科学専攻

## も く じ

I. 看護科学専攻の組織運営 .....	1
1. 看護科学専攻の目的,教育目標 .....	1
2. 看護科学専攻の沿革 .....	3
3. 看護科学専攻の組織 .....	5
4. 看護科学専攻の施設・設備 .....	11
II. 教育活動 .....	13
1. 教育内容及び方法 .....	13
2. 自発的な教育活動 .....	14
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム .....	16
4. 大学院教務・専攻事務の支援体制 .....	19
III. 研究活動 .....	21
IV. 大学生支援 .....	44
V. 社会貢献と国際交流 .....	48

# I. 看護科学専攻の組織運営

## 1. 看護科学専攻の目的,教育目標

### 1)看護科学専攻博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学専攻博士前期課程では、学際的及び国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。博士前期課程では科学的な根拠に基づいて看護の指導的な役割を担う教育者・研究者を目指す学生および看護の実践能力および高度な専門性を有する看護の高度専門職業人を目指す学生を求めています。

看護科学専攻博士後期課程では、看護学の高度専門職者・管理者、教育者・研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる能力を育成します。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を育成します。博士前期課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、さらに次代に向けて必要となる新たな知識の創造と、技術開発の基礎となる教育・研究方法などについて体系化できる力を備えようとする教育者・研究者、あるいは、看護科学の基礎的な能力を修めた者で、実践と理論の架け橋となるための高度専門看護者・管理者、行政官を目指そうとする者を求めています。

### 2)看護科学専攻博士前期課程の特色と教育目標

看護科学専攻博士前期課程では、教育目的を達成するために、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設定します：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラム。

博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護科学の領域で、社会的学術的意義が高く、看護科学の発展に寄与できる研究を実践できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって看護を実践・教育する能力
- ③ 看護を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく看護の実践能力
- ⑤ 国際的な看護実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の看護研究の成果を自らの実践に活かす能力

専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

- ① 科学的な根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護実践における高度な専門的知識・技術・実践能力
- ③ 学際的な視点で看護を科学的に分析する能力
- ④ 国際水準の看護実践を志向できる能力

高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、助産学分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

科学的根拠に基づいて助産を探究し、実践する能力

- ① 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって助産を研究・実践する能力
- ② 助産を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ③ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく助産の実践能力
- ④ 国際的な助産実践を志向する能力
- ⑤ 国際水準の助産研究の成果を自らの実践に活かす能力

### 3)看護科学専攻博士後期課程の特色と教育目標

看護科学専攻博士後期課程では、教育目的を達成するために、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえて、看護科学の領域において博士の学位に相応しい

だけの新規性、独創性と十分な学術的価値のある学位論文を提出できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 看護実践の基盤になる科学的根拠を創出する研究能力
- ② 看護に関する高度な知識と技術力
- ③ 高度専門職者としての実践知に基づく教育・研究能力
- ④ 確かな倫理観と価値基準に裏付けられた研究能力
- ⑤ 国際水準の研究能力

## 2. 看護科学専攻の沿革

### 1) 博士前期課程の沿革

平成 15 年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として 4 年制大学になりました。平成 18 年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、**平成 19 年 4 月**に人間総合科学研究科に設置されました。

社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の 3 側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域で教育が始まりました。

看護においては人々の QOL の向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求められ、**平成 22 年度**から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。**平成 23 年度**には「がん看護」「精神看護」、**平成 24 年度**には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極的に e-learning を導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努

めてまいりました。

また、平成 23 度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域に再編しました。

平成 26 年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の 4 分野において専門看護師教育課程(38 単位)の認定を受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し(文部科学省認定)て助産師養成教育を提供しています。

平成 29 年には、前期課程内に、修了後の進路に対応したプログラム:①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムを設定し、運営を開始しています。

平成 29 年度までに博士前期課程を修了する学生は 148 名となります。修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍し、成果をあげています。また 14 名の修了生が専門看護師試験に合格しています。

## 2) 博士後期課程の沿革

国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成 13 年に「人間総合科学研究科」が開設され、この人間総合科学研究科に平成 19 年 4 月に看護科学専攻博士前期課程が、前期課程の開設に引き続き、平成 21 年 4 月に看護科学専攻博士後期課程が誕生しました。

平成 26 年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

本専攻は平成 25 年度 3 月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。博士(看護科学)の授与は、1 名の論文博士を含め、平成 29 年度 3 月までに計

28名となり、日本のさまざまな保健分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

### 3. 看護科学専攻の組織

#### 1) 教務委員会

##### (1) 前期課程修了に係る論文審査実施に関する活動

- ① 修士論文審査申請に関するガイダンス実施(平成30年3月1日)
- ② 平成29年度修士論文発表会の開催(5月26日, 12月21日)
- ③ 修士論文審査実施状況の把握

##### (2) 後期課程修了に係る論文審査の実施に関する活動

- ① 博士学位論文審査申請に関するガイダンス実施(平成30年3月1日)
- ② 平成29年度博士学位論文予備審査発表会ならびに本審査発表会の開催
- ③ 博士学位論文審査実施状況の把握
- ④ 後期課程論文審査の外部委員に関する内視(案)の作成
- ⑤ 博士学位論文審査に関する申合せの検討

##### (3) (前期課程)研究計画書審査実施に関する活動

- ① 研究計画書審査委員案の作成
- ② 平成29年度研究計画書審査発表会の開催(4月27日)
- ③ 研究計画書審査委員の推薦時期の検討

##### (4) (後期課程)研究計画書審査・発表会の開催

- ① 研究計画書審査委員案の作成
- ② 平成29年度研究計画書審査発表会の開催(4月27日)

##### (5) カリキュラム管理

- ① シラバス(本年度、次年度)の管理、時間割の管理・作成
- ② インターンシップ・看護科学特別実習の実施状況の確認、報告書の管理

- ③ 大学院便覧の管理
- ④ 平成 30 年度 大学院スタンダード案の作成
- ⑤ 学群生、科目等履修生の選考方法等規程の確認
- ⑥ 大学院生の INFOSS 受講状況の管理
- ⑦ がんプロ再開に伴う履修方法・修了要件の修正
- ⑧ 看護学研究法(前期)と看護研究方法論(後期)の見直し
- ⑨ 教育戦略プロジェクト支援事業(国際共同セミナー)の一部授業化の検討

(6) 専門研究領域・指導体制

- ① 研究領域・指導教員届(M1,D1,D2)の確認
- ② 再入学者の既修得単位の認定
- ③ 専門研究領域の管理

(7) 非常勤講師の照会・任用手続き案の作成

(8) 平成 31 年度学位プログラム化に向けた検討

(9) 附属病院の病院利用者申請の手続きの確認と周知

(10) 授業評価の実施

授業評価を行い担当教員へ評価内容を伝え、コメントを得た

<次年度への継続課題>

- ・学位プログラム化に向けた整備
- ・博士学位論文審査に関する申合せの検討(副論文、参考論文、等)



## 2)入試委員会

平成 29 年度の入試委員会の活動は、博士前期課程、博士後期課程の入学試験の実施とそれに伴う各種業務を遂行した。本専攻の入試実施体制のなかで、出題ミス予防に向けた基準等を遵守し、適正かつ公正である入学試験となるよう入学試験を実施した。また、入学志願者数が増加するよう広報委員会と協力しながら活動することに務めた。入学試験の実施状況は以下の表のとおりである。

<平成 29 年度入学試験の実施状況>

### 博士前期課程

8 月期入試 筆記試験 平成 29 年 8 月 22 日、口述試験 8 月 23 日

2 月期入試 筆記試験・口述試験 2018 年 1 月 30 日

			志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内数
募集人員 (15 名)	8 月期 入試	一般	17	14	11	2
		社会人	2	2	1	0
	2 月期 入試	一般	4	4	3	0
		社会人	0	0	0	0

### 博士後期課程

8 月期入試 筆記試験・口述試験 平成 29 年 8 月 22 日

2 月期入試 筆記試験・口述試験 平成 30 年 1 月 30 日

		志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内数
募集人員 (8 名)	8 月期入試	7	7	6	0
	2 月期入試	4	4	3	2

博士前期課程 再入学試験 平成 30 年 1 月 30 日

志願者数 1、受験者数 1、合格者数 1

#### <その他の活動>

- ・平成 30 年度募集要項の再編
- ・留学を希望する外国人に対する積極的な面接の実施

#### <次年度に向けた課題>

看護科学専攻 博士前期課程、後期課程の受験者数の増加に向けて積極的な広報をおこない、本専攻のアドミッション・ポリシーに見合う志願者を継続的に集めることを今後の課題とする。特に博士後期課程では、研究者、教育者や高度実践看護者の育成を目的に、本学博士前期課程から後期課程への進学者を推奨するとともに、対外的な看護科学専攻の広報活動について検討していきたい。

### 3) 広報・情報委員会

#### <看護科学専攻ホームページの更新>

受験生へのアピールを目指し、昨年度に増して在校生・修了生からのメッセージや国際交流に関する記事を増やし、フォトギャラリーもかなり充実させた。

一方、スマートフォンやタブレット端末での閲覧に最適化することを目指したホームページデザインに改めてから、従前データを取っていたアクセス解析を利用することができなくなり、ホームページに到達するまでの検索キーワードやアクセスも元に関するデータが得られなくなった。今後、広報に利用できる何らかのデータを収集する方策を検討していく必要がある。

#### <入試説明会の開催>

平成 30 年度入学生のための説明会を以下の通り開催した。

日時：平成 29 年 6 月 9 日(金)17:00～18:30

場所：健康医科学イノベーション棟 8 階講堂

参加者数：前期課程希望 51 人(前年度 42 人)

後期課程希望 6 人(前年度 3 人) 合計 57 人(無回答 2)(前年度 47 人)

今年度は昨年度と比較して参加者が2割増えた。実際には昨年度の反省に基づいた内部生への働きかけを強めたことにより、看護学類3年生の増加が働いたことが大きい。今後も、内部学類生への勧誘とともに、学外への発信をさらに強めていくために新しい方策を考える必要がある。

#### <入試説明会参加者に対する調査の実施>

入試説明会参加者のうち、49人に調査協力を得た(回収率86%)。入試説明会は大変参考になった(61%:前年度53%)、参考になった(35%:前年度43%)との回答であり、一昨年度と比較して満足度が向上した昨年度と比較しても、さらに満足度が向上したと考えられる。参考になった内容(重複回答)は、在校生メッセージ(78%)、研究領域紹介(71%)、入試に関する説明(53%)、助産師コースの説明(35%)、国際交流協定校の説明(33%)、長期履修制度の説明(29%)の順であった。おおむね例年通りだが、国際交流協定校に関する説明の順位が上がった。例年、受験生の関心が比較的高いのは在校生メッセージであり、今回はCNSコース・前期課程1年・後期課程1年各10分の紹介時間を確保した。入試説明会の情報入手方法はホームページからが53%と最も多いが、比率が低下しており、アンケートの自由記載意見でも「ホームページの案内はもう少し早くしてほしい」というものがあつた。本部からの公式アナウンスと同時に公開するように努めているが、事前予告情報を工夫するのが望ましいようだ。メーリングリストからも前年22%から39%と倍増しており、教員からの勧誘もいまだ重要性が高い。

全体的に、年度当初の数値目標はおおむね達成されたが、受験生増加の実質的な成果につなげるべく、外部リンクの増加の機会を見つけて当サイトへたどり着く確率を上げる方策を今後も検討していく。

#### 4)FD・自己点検評価委員会

本専攻におけるFD活動は、先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外との学術協定校等との交流を通して、教員の教育力の向上と先進の取り組みを学ぶことにある。

そのために海外の協定校との連携も深めながら、海外看護教員を招聘し、教育方法の改善に向けたFDコンサルティング、研修会議等を実施してきた。

平成28年度の主な活動実績として、「CNL, CNS, NPなどの高度看護実践看護者の育成と実践への起用、臨床と教育のコラボレーション」と題して、専門看護師の育成や臨床看護の場との連携などに関し、研修会等も実施し今後の教育の向上に向けた検討を行った。「CNLの育成と教育とのコラボレーション」、「CNS, NPの実践への起用」をテーマとした講演と意見交換を行った。

引き続き平成29年度は、高度看護実践看護者の育成と実践への起用、臨床と教育のコラボレーション、アクティブラーニングを取り入れた国際的交互性のある高度看護実践教育をキーワードとしたFDセミナーを開催し、専門看護師の育成や臨床看護の場との連携など、今後の教育の向上に向けた検討を行った。また、「平成29年度看護科学専攻国際共同セミナー」の一部として海外の緩和ケアの現状についてのパネルディスカッション、同性婚の家族や子育てをテーマにした「Love Makes Family」のセミナーを開催した。参加した教員や学生からも高評価を得ており、「Love Makes Family」は、平成29年度人間総合科学研究科のFD奨励賞を受賞した。

また、平成28年度に実施出来ていなかった授業評価に関しては、平成29年度においては、ほぼ全科目において実施し、学生からの評価を分析することができた。

今後も、積極的に海外との提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていく。

## 5)ICT・国際活動委員会

平成29年度は国際活動において活発な動きがある一年となった。まず、海外との協定では、ベトナムナムディン看護大学、モンゴル国立医科大学との協定がむすばれ、さらなる教育、学術の交流が促進されることになった。9月に行われたTGSWにおいては、ホーチミン医科薬科大学、ナムディン看護大学、モンゴル医科大学から教育・研究者を招聘し、学際的な交流と今後のコラボレーションについての協議が行われた。また、11月には専攻科において平成29年度「教育戦略推進プロジェクト支援事業」の助成を受け、国際通用性を志向した看護科学専攻(博士後期課程1年次:D1)におけるコースワーク

(理論・哲学・研究法)を礎に、国際学術協定を持つ大学(国立台湾大学、イリノイ大学シカゴ校、ガジヤマダ大学)の院生とのアクティブラーニングを取り入れた 2017 筑波国際共同看護学セミナー「緩和ケア」を開き、国際的交互性のある看護実践教育を実用化する体制を構築するための取り組みを行った。3 日間のセミナーにおいて参加学生は、複数の研究事例と教育事例を題材に、実例を通して研究学位と専門学位の違いを学び、国際水準の看護研究を視座に、各自の学位論文の研究目的を振り返りながらその計画を洗練させるための動機づけの機会と実施方法に関する知識を得る。セミナーに照準を合わせた準備として、コースワークとセミナーとの連動について教務委員会と科目担当者、セミナー実施責任者(ICT・国際活動委員会)間で検討をおこない、セミナーの評価指標に対する合意を形成した。本学の学習管理システム Manaba を利用して参加学生の事前学習用のプラットフォームを作成し、参加学生や教員間の交流を促すと共に、イリノイ大学シカゴ校の e-ラーニング教材を利用した事前学習を組み入れた。参加学生によるコースワークとセミナーに対する評価と自己の学びの評価を組み合わせた評価を実施することにより、学生の主体的な学びの実状を考察し、継続した教育体制の構築につなげた。

#### 4. 看護科学専攻の施設・設備

##### 1) 施設設備委員会

<本年度の施設・設備整備状況>

- ・12月1日、職場巡視において 共同利用棟 B 103 教室において棚とホワイトボードの転倒防止対策または、撤去を指摘された。また、共同利用棟 B 107 教室の床から配線がでており、躓きの危険がないように机のレイアウトを変えるなどの措置をするよう指摘を受けた。
- ・103 教室においては、棚、ホワイトボードともに廃棄したこと、107 教室においては配線を床下に収納したことを報告した。
- ・共同利用棟 B の研究室でネズミが出現したが、ネズミ駆除剤散布するなど対処を行った。
- ・医学医療エリア内で禁煙場所での吸い殻が目立ったため卒煙場所が設置された。一時的には改善したが、再び学内でたばこの吸い殻が目立ったため、防犯カメラが設置

された。防犯カメラ設置後は、吸い殻が減っていることが報告された。

- ・共同利用棟 B に研究室があった教員に4B 棟5階の研究室に移室してもらった。
- ・共同利用棟 B の研究室は、ゼミ室として利用できるように整備した。
- ・共同利用棟 B のゼミ室を勝手に使用している学生がいるため、貼り紙で使用許可を得るよう注意喚起した。

#### <次年度に向けた課題>

- ・施設設備委員長から医学地区の将来計画として駐車場の整備が検討されている。現在、駐車希望者よりも駐車可能台数が少ないため、ゆりの木通り沿いに駐車可能なスペースを設ける予定が検討されている。
- ・附属病院と学系棟との間にセキュリティドアの設置が検討され、平成 30 年度に一部設置が予定されている。
- ・4D 棟及び4C 棟の耐用年数は 20 年程度のため、2024 年、2026 年には使用することが難しくなることが考えられ、引き続き検討されることになっている。
- ・看護科学専攻の教育・研究環境が充実するよう努める

## Ⅱ．教育活動

### 1. 教育内容及び方法

看護科学専攻博士前期課程では、医療技術の進歩と疾病構造の変化による多様な医療ニーズに応えられる幅広い知識を持った豊かな人間性と科学的思考を促進する科目を、専門基礎科目として設定している。また、学際的視野を広げ、研究的視点が拡充できるように大学院共通科目の履修を奨励している。看護科学の専門分野としては、ウィメンズヘルス看護学・助産学、小児・家族看護学、がん看護学、精神保健看護学、地域健康・公衆衛生看護学、国際地域ケア、国際看護学、療養調整看護学、の 8 つの専門研究領域に関する専門科目を編成している。さらに、高度専門職業人育成に関するカリキュラムとして、平成 26 年度から 38 単位よりなる専門看護師養成教育課程を 4 専門領域(がん看護、慢性看護、精神看護、家族看護)と 58 単位よりなる助産師教育課程をおいている。また、国際交流協定をもつ大学への学生留学やイリノイ大学や国立台湾大学との教育・研究に関する学術交流を活性化させ、グローバル水準での教育・研究活動に勤しめる環境を提供することに力を注いでいる。

看護科学専攻博士後期課程では、学融・学際的な発想を重視して、新しい看護科学の創造に向けた取り組みが可能となるようなカリキュラム編成としている。学修を高めるための方策として、学問領域の狭義な枠組みを超えて、真の意味で実践と理論のバランスのとれた人材の育成と、科学的根拠に基づく理論の学修が深められ、実践科学としての看護学の発展につなげることが可能となるように科目を構成している。また、学術協定をもつ大学への学生の留学や教育・研究に関する学術交流の活性化により、国際水準の研究能力を培う環境を提供する。さらに、高度実践看護師養成のための科目も開設している。

カリキュラムの詳細は、授業科目一覧と各科目のシラバスを参照

## 2. 自発的な教育活動

<勉強会>

### 【参加者】

阿部吉樹 大学院生(慢性看護学領域の前期課程の院生、他領域の参加希望者)

### 【内容】

- (1)論文を読んだり,書いたりするための基礎となる論理学および統計学の基礎について、  
討議を通して、理解を深める。
- (2)参加者各自が読んでいる論文で、「よくわからない」点につき、参加者全員で討議し、  
何がわからないのか、勉強すればわかるようになるのかを明確にし、各自の学習課題  
を明らかにする。

### 【日時・内容】

開催日時は不定期。参加者で相談して決定。使用図書は定めず、各回,阿部が準備した資料をもとに討議を行った。参考図書は適宜紹介した。

第1回(12月1日) 論文には何が書かれているのか？

Research Question, PICO/ PECO

論文はどのように書かれているのか？

STROBEとCONSORT

第2回(12月8日) 論理という<ルール>

概念と命題, 論理,論証責任の考え方

## 3.教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

<本年度の学位論文のテーマ>

看護科学専攻博士後期課程

**松浦 彰護**

「入院中の統合失調症者に対する共感性を高めるための看護介入プログラムの有効性の検討」



**田中 理恵**

「新規に診断された 2 型糖尿病患者を対象とした糖尿病セルフマネジメント教育の  
効果に関する研究」

**大森 圭美**

「日本人統合失調症者におけるセルフスティグマの認識」

**牟田理恵子**

「一般病棟の看護師を対象とした終末期がん患者の家族支援ガイドの作成と有用  
性の検証」

**仁昌寺貴子**

「全身性エリテマトーデス患者が出産に至る経験」

**小澤 典子**

「陽子線治療に臨む子どもの母親が抱く思い」

**菅谷 智一**

「思春期自閉スペクトラム症者への看護介入プログラムの有用性-ストレングスの自  
覚とセルフエスティームの向上」

**菱谷 純子**

「女子大学生の性と生殖に関するヘルスリテラシーと次世代育成力および母親がそ  
なえるジェネラティヴィティとの関連」

看護科学専攻前期課程

**一條 晶代**

「慢性肺炎患者の病気認知と健康行動、知覚されたソーシャルサポートとの関連」

**成嶋 恭子**

「看護師の職場におけるインシビリティとコーピングが精神的苦痛とバーンアウトに及ぼ  
す影響—インシビリティの実態に焦点を当てて—」

**Somayeh Tanha**

「Role of Illness Perceptions in Self-Care Behaviors of Patients with Type 2  
Diabetes in Iran.(イランの 2 型糖尿病患者の病気認知とセルフケア行動の関連)」

**上東 琴美**

「生後 3～7 か月の乳児を持つ母親の育児感情とインターネット依存傾向、ソーシャル・サポートとの関連」

**安宅 和佳奈**

「産後1か月女性の骨盤底筋力の実態および分娩に関する要因との関連性の検討」

**飯泉 慧美**

「妊娠末期における妻への夫の関わり満足感と妻の精神状態の関連」

**嶋田 香里**

「病院に勤務する看護師のがん患者の就労上の問題に対する知識の実態と知識に関連する要因」

**糸永 亜紀**

「慢性疾患患者のエンドオブライフ・ケアに対する看護師の困難感とその関連要因の探索」

**井本 京**

「産後 1 か月の母親のストレス対処能力 (Sense of Coherence) と主観的睡眠状態およびストレスが産後の抑うつ傾向に与える影響」

**小野 郁美**

「病院看護師の精神的健康およびプレゼンティーズムに関連する要因」

**工藤 理恵**

「歯科のない病院1施設に外来通院中の 2 型糖尿病患者の口腔自己管理行動の実態と自己効力感との関連」

**佐々木 実輝子**

「オンライン診療をうける子どもの主たる養育者の体験と思い」

**佐藤 佑香**

「看護学生の共感の構造とその関連要因」

**鈴木 理恵**

「病院の看護職員における腰痛に関連する要因」

**千葉 育子**

「外来化学療法患者のがんに伴う倦怠感のセルフマネジメント行動と健康信念モデルに基づく認知的要因との関連」

**筒井 董子**

「産後1か月の母親の抑うつ傾向に関連する要因の検討」

**藤浪 優花**

「妊娠中期の糖代謝と活動量計で測定した生活活動量の関連」

**松村 拓実**

「循環器疾患予防のための効果的な保健指導の在り方に関するコホート研究」

<FD 委員会の活動実績と今後の課題>

平成 29 年度 FD セミナー(主催)

日時:7 月 1 日(土)13:30~15:30 場所:4B 棟 209 講義室

- クリニカルナースリーダー(CNL)という役割
  - パトリシア・トーマス博士(グランバレー州立大学)
- 看護のケアの質とアウトカムを向上させる CNL の実践起用
  - 角田みなみ先生(聖アンソニー看護大学)
- 臨床博士(DNP)課程における教育と EBP プロジェクト
  - ブランディ・メッサー博士(聖アンソニー看護大学)

国際共同セミナー公開講座/パネルディスカッション(共催)

日時:11 月 6 日(月)17:00~19:00 場所:4B 棟 209 講義室

- 「学ぼう! 海外の緩和ケア事情 ~インドネシア・台湾・米国~」
  - クリスタンティン・エフェンディ先生(ガジャマダ大学)
  - チャールズ・インリン先生(イリノイ大学シカゴ校)
  - ポーリー・ユー先生(国立台湾大学)

国際共同セミナー公開講座/パネルディスカッション(共催)

日時 11月8日(水)16:45~18:00 場所:4B棟 209 講義室

● 「Love Makes Family」

➤ チャールズ・インリン先生(イリノイ大学シカゴ校)

看護研究者セミナーシリーズ 2018(共催)

① 外国人研究者と話そう:育児とキャリアの両立

日時:1月31日(水)15:30~17:00 場所:グローバルビレッジコミュニティープラザ

② 看護学研究者への期待:モンゴル人医師からのメッセージ

日時:2月1日(木)12:00~13:30 場所:共同利用棟 B103

③ 教育の仕事と自分の研究活動を両立させるには

日時:2月6日(火)12:00~13:30(14:00~15:30 座談会)

場所:共同利用棟 B103

④ グローバルヘルスにおける女性研究者の活躍と成長を支えてゆくために

日時:2月6日(水)16:00~18:00 場所:共同利用棟 B103

本年度はFD委員会主催のセミナー1回、共催のセミナー3回を開催した。特別講演 Love Makes Family は、看護科学専攻、ICT国際活動委員、FD自己点検委員会が主催となり、さらに筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが共催して開催した。英語のチラシや全学の日本語&英語サイトでの広報により、留学生や、同性婚に対して厳しいイスラム系の方など、外国人の参加も得られた。これが評価され、平成29年度人間総合科学研究科のFD奨励賞を受賞した。また、本年度は、ほぼ全科目において授業評価を実施しており、学生からの評価を分析することができた。

今後も、積極的に海外との提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていくことが課題である。

#### 4. 大学院教務・専攻事務の支援体制

看護科学専攻は、大学院教務ならびに看護科学専攻事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を下記にまとめる。

##### <大学院教務の学生に関する主な支援業務>

1. 看護科学専攻の入学試験
2. 学位記授与式,新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)
5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生,研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係
9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係
11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

##### <看護科学専攻事務の学生に関する主な業務>

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受取
4. 郵便物の配布
5. 授業教室の予約
6. 教室予約受付・管理
7. 平成 29 年度共同利用棟 B106・107・204・205・206・207
8. ロッカーキーの貸出・管理
9. 印刷機、備品の管理

10. 消耗品(トナー、インク、用紙)の交換
11. TA 任用、管理
12. メール配信：ほとんどが大学院教務,学生支援からの依頼による学生へメール配信
13. 各発表会、審査会サポート
14. 入試の準備・手伝い
15. 学位記授与式の準備・手伝い
16. 予算管理

### Ⅲ. 研究活動

#### 1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

#### A. ウィメンズヘルス看護学・助産学研究グループ

- 教授 岡山久代
- 准教授 川野亜津子
- 助教 金澤悠喜

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 安藤美香

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 龜山千里

<学会発表>

- 1) 龜山千里, 鈴木悦子, 深澤千映子, 上澤弘美, 鈴木淳, 遠藤香織, 松本俊子. (2017). 総合病院における卒後 3 年目を対象とした看護倫理研修の評価. 日本看護倫理学会第 10 回年次大会, 118, 大分. 日本.
- 2) 小原祐介, 上岡将之, 堀井京子, 龜山千里, 鈴木悦子, 今村公俊, 近藤乾, 小橋和彦. (2017). 土浦協同病院における新生児領域 High Flow Nasal Cannula の現状. 第 67 回日本病院学会, 233, 神戸. 日本.
- 3) 小沼淳子, 龜山千里, 三ツ木愛美, 箭内千秋, 深澤千映子. (2017). NICU のきょうだい面会で幼児期にあるきょうだいが示すサインーBaby Cues を活用してー. 第 27 回日本小児看護学会学術集会, 169, 京都. 日本.
- 4) 木下亜由美, 龜山千里, 深澤千映子. (2017). 双子を出産した精神疾患のある母親へ訪問看護サービスを利用した育児支援. 第 35 回茨城県母性衛生学会学術集会, 茨城. 日本.
- 5) 畑岡静子, 龜山千里, 深澤千映子, 前田和子. (2017). NICU 入院児の親に対

する退院前母子同室支援の評価. 第 27 回日本新生児看護学会学術集会, 115, 埼玉. 日本.

6) 芹沢真里, 龜山千里, 大嶋あずさ, 畑岡静子, 深澤千映子. (2017). 小児在宅医療移行支援に関する研修会の実際とその評価. 第 27 回日本新生児看護学会学術集会, 130, 埼玉. 日本.

7) 上東琴美, 飯泉慧美, 奥瀬芽生, 龜山千里, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). 小児の体圧測定に関する文献検討. 第 5 回看護理工学学術集会, 金沢. 日本.

#### <社会活動>

- 1) 鹿行地区家庭相談員及び母子・父子自立相談員連絡会 講師.
- 2) 日本小児看護学会第 27 回学術集会テーマセッション 講師.
- 3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻助産師教育課程 講師.
- 4) 茨城県看護協会 平成 29 年度実習指導者講習会 講師.
- 5) 茨城県看護協会 平成 29 年度訪問看護支援事業訪問看護専門分野研修(小児・重症心身障害児)講師.
- 6) 茨城県立中央看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師.
- 7) 茨城県立結城看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師.
- 8) 茨城県土浦看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師.

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 VASCONCELOS DOMINGUEZ  
CUNHA.MILLEANNI

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 小澤典子

#### <学会発表>

- 1) Ozawa N, Furuya K, Ishikawa Y. (2017). Mother's Anxieties before the Proton Beam Therapy of Child. *Sigma Theta Tau International's 27th International Nursing Research Congress*. STTI.
- 2) 古谷佳由理, 小澤典子, 平賀紀子. (2017). 大学生におけるヘルスリテラシーに関する実態調査, 第 64 回日本小児保健協会学術集会. 日本.



- 3) Furuya K, Ozawa N, Hiraga N. (2017). The study for health literacy in Japanese high school student. TNMC & WANS International Nursing Research Conference.

<受賞>

- 1) 2017年度 小児がん看護学会研究奨励賞  
原著論文 転院をして陽子線治療を受ける子どもの母親の体験.

□看護科学専攻 博士後期課程3年 菱谷純子

□看護科学専攻 博士後期課程2年 青木真希子

<学会発表>

- 1) 青木真希子, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). 女性の性周期と認知機能の関連性に関する文献整理. 第5回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士後期課程1年 内藤紀代子

<論文>

- 1) 内藤紀代子, 岡山久代, 玉里八重子. (2017). 医療施設における助産師活動の自律性測定尺度の開発と信頼性・妥当性の検証. *日本ウーマンズヘルス学会誌*, 15(2), pp1-10.
- 2) 内藤紀代子, 平松恵子, 杉本栄子, 川副知佐, 溝口孝子. (2017). 少子化対策大学生プロジェクト「鮎っこ育成イベント」の本学での取り組みと評価. *びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部外部連携研究センター年報*, 3, pp54-59.
- 3) 内藤紀代子, 平松恵子, 村西美恵子, 溝口孝子. (2017). 本学の養護教諭課程における小児看護実習の新たな取り組み. *びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部外部連携研究センター年報*, 3, pp60-63.
- 4) 長嶺共全, 吉永博之, 山和美, 吉原真紀, 酒井美寝菜子, 川副知佐, 内藤紀代子, 平松恵子. (2017). 教員免許や国家資格を目指す学生を特徴付ける統計的指標に関するフラクタル的研究～養護教諭免許中心に～. *びわこ学院大学びわこ学院大学短期大学部研究紀要*, 8, pp167-173.

- 5) 岡山久代, 内藤紀代子, 寺坂多栄子, 土川祥. (2017). 妊娠期の両親学級で行なうプレママ・パパへのメンタルヘルス. *助産雑誌*, 71(10), pp764-768.

<学会発表>

- 1) 内藤紀代子, 川副知佐, 平松恵子, 杉本栄子, 溝口孝子. (2017). 大学生が実施する性教育に対する高校生からの評価. 第 47 回滋賀県公衆衛生学会, 滋賀, 日本.
- 2) 河合孝輝, 平松恵子, 内藤紀代子, 杉本栄子. (2017). 滋賀県下における保育者への一次救命についての意識・実態調査. 第 47 回滋賀県公衆衛生学会, 滋賀, 日本.
- 3) Kiyoko Naito, Sanae Ninomiya, Kyoko Nakanishi, Hisayo Okayama. (2017) Analysis of the feelings of women who have begun to experience urinary incontinence. 7th World Congress on Women's Mental Health, Dublin, Ireland.
- 4) Sanae Ninomiya, Kiyoko Naito, Kyoko Nakanishi, Hisayo Okayama. (2017) Relationship between the quality of life and the type of urinary incontinence in Japanese women. 7th World Congress on Women's Mental Health, Dublin, Ireland.
- 5) Kiyoko Naito, Sanae Ninomiya, Kyoko Nakanishi, Yoko Omori, Yoshino Saito, Hisayo Okayama. (2017). Relationship between the use of pelvic floor supporters in pregnancy and following childbirth and stress urinary incontinence. 31th International Confederation of Midwives, Tronto, Canada.
- 6) 内藤紀代子. (2017). ATP 検査測定用ルミノメータの学校感染管理への応用～最近発生個所の状況と水拭きによる ATP 値の変化～, 第 5 回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 内藤紀代子(代表者). 平成 28～30 年度 基盤研究 C. リアルタイム MR を用いたバイオフィードバックによる骨盤底筋トレーニングの効果検証.
- 2) 二宮早苗(分担者: 岡山久代, 内藤紀代子, 森川茂廣, 遠藤善裕). 平成 29～31 年度, 基盤研究 C. 骨盤底筋群に作用する姿勢の探索—指導しやすい新骨盤

底筋トレーニングの確立に向けて。

- 3) 齋藤祥乃(分担者: 有馬久富, 内藤紀代子, 上島弘嗣, 三浦克之, 岡山久代).  
平成 27~30 年度, 基盤研究 C. 妊娠初期の尿中 Na/K 比が分娩前の血圧上昇  
および妊娠高血圧症候群発症を予測するか.
- 4) 内藤紀代子(代表者). 平成 29 年度 びわこ学院大学学長裁量経費. 地域教育  
施設の感染サーベイランスプロジェクト.

<共同研究・受託研究講演会・学会の開催>

- 1) 内藤紀代子(代表者). 平成 29 年度 COC+地元志向教育. 「子ども達に「生きる  
力」をはぐくむ教育者の人材育成事業」実施.

<講演会・シンポジウム・研修会の講演>

- 1) 内藤紀代子. (2017). 布引運動公園スポーツ健康 Day での健康アドバイザー.
- 2) 内藤紀代子. (2017). 滋賀県立能登川高等学校キャリア形成支援事業プログラ  
ム. 「熱中症の対策」講義実施.
- 3) 内藤紀代子. (2017). 守山市立河西小学校 PTA 研修会「子どもたちの性(心が  
生きる)の理解」講師.
- 4) 内藤紀代子. (2017). 滋賀県五個荘コミセン楽学アカデミーでの講演会「女性の  
健康は中高年が勝負！」講師.
- 5) 内藤紀代子. (2017). 滋賀県東近江市健康推進委員会研修会「内から美人(骨  
盤底筋の話)」講師.
- 6) 内藤紀代子. (2017). 滋賀県愛荘町 PTA 連絡協議会研修会「若者の性(心が  
生きる)の理解」講師.
- 7) 内藤紀代子. (2017). 滋賀県湖南ブロック養護教諭分科会講演会「月経のはなし」  
講師.

<公開講座>

- 1) 内藤紀代子. (2017). びわこ学院大学「子育てママの健康講座と健康チェック」.

<出張講義・出前講義>

- 1) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀学園中  
学校 全学年.

- 2) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 東近江市立朝桜中学校 2 年生.
- 3) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 東近江市立玉園中学校 1, 2 年生.
- 4) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 東近江市立玉園中学校 3 年生.
- 5) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立甲西高等学校 2 年生.
- 6) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 守山市立守山南中学校 3 年生.
- 7) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀学園高等学校 1 年生.
- 8) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 近江八幡市立八幡東中学校 3 年生.
- 9) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立東大津高等学校 1 年生.
- 10) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立彦根東高等学校 1 年生.
- 11) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 彦根市立西中学校 2 年生.
- 12) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 守山市立守山北中学校 1 年生.
- 13) 内藤紀代子. (2017). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立日野高等学校 1, 3 年生.

<公的な委員会>

- 1) 看護理工学会評議員.
- 2) 滋賀県助産師会組織強化委員長.
- 3) 滋賀県母性衛生学会誌編集委員.

4) 滋賀県ライフプランニングプログラム・モデル構築事業検討会委員。

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 上東琴美

<学会発表>

- 1) 上東琴美, 飯泉慧美, 奥瀬芽生, 龜山千里, 川野亜津子, 岡山久代. (2017).  
小児の体圧測定に関する文献検討. 第5回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 安宅和佳奈

<学会発表>

- 1) 安宅和佳奈, 藤浪優花, 小熊良佳, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). 新生児にかかると体圧の比較. 第5回看護理工学会学術集会, 金沢, 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 井本京

<学会発表>

- 1) 井本京, 筒井董子, 原田真友子, 藤田雅美, 川野亜津子, 岡山久代. (2017).  
わが国における新生児・乳児の臥位姿勢に関する過去10年間の文献的考察. 第5回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 飯泉慧美

<学会発表>

- 1) 上東琴美, 飯泉慧美, 奥瀬芽生, 龜山千里, 川野亜津子, 岡山久代. (2017).  
小児の体圧測定に関する文献検討. 第5回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 筒井董子

<学会発表>

- 1) 井本京, 筒井董子, 原田真友子, 藤田雅美, 川野亜津子, 岡山久代. (2017).  
わが国における新生児・乳児の臥位姿勢に関する過去10年間の文献的考察. 第

5 回看護理工学会学術集会, 金沢.日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 藤浪優花

<学会発表>

- 1) 安宅和佳奈, 藤浪優花, 小熊良佳, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). 新生児にかかる体圧の比較. 第 5 回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1 年 奥瀬芽生

<学会発表>

- 1) 上東琴美, 飯泉慧美, 奥瀬芽生, 龜山千里, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). 小児の体圧測定に関する文献検討. 第 5 回看護理工学会学術集会, 金沢.日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1 年 小熊良佳

<学会発表>

- 1) 安宅和佳奈, 藤浪優花, 小熊良佳, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). 新生児にかかる体圧の比較. 第 5 回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1 年 原田真友子

<学会発表>

- 1) 井本京, 筒井董子, 原田真友子, 藤田雅美, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). わが国における新生児・乳児の臥位姿勢に関する過去 10 年間の文献的考察. 第 5 回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1 年 藤田雅美

<学会発表>

- 1) 井本京, 筒井董子, 原田真友子, 藤田雅美, 川野亜津子, 岡山久代. (2017). わが国における新生児・乳児の臥位姿勢に関する過去 10 年間の文献的考察. 第 5 回看護理工学会学術集会, 金沢. 日本.

□研究生 所恭子

<論文発表>

- 1) Tokoro K, Ito Y, Emori Y, Kawaguchi T. (2017). Relationship between Fatigue and Heart Rate Variability in Mothers up to Three Months Postpartum. *MOJ Womens Health* 6(3), 00156. DOI: 10.15406/mojwh.2017.06.00156.<http://medcraveonline.com/MOJWH/MOJWH-06-00156.pdf>. (cited 2017-12-28).

B. 小児・家族看護学研究グループ

■准教授 涌水理恵

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 山口慶子

<学会発表>

- 1) Yamaguchi K, Ishige M, Ogawa E, Takano C. (2017). A case report of the primary caregivers? Experience of diet therapy of children with hepatic glycogen storage diseases in Japan. 13<sup>th</sup> International Congress of Inborn Errors of Metabolism. (Poster No.456).
- 2) 山口慶子, 涌水理恵, 石毛美夏, 小川えりか, 高野智圭. (2017). アミノ酸代謝異常症患児姉妹の食事療法と 学校給食の両立にまつわる課題と成功要因 -主たる養育者の語りの事例検討より-第 64 回日本小児保健協会学術集会 76 巻講演集, (一般演題 02-016), 日本.
- 3) 山口慶子, 涌水理恵, 佐々木実輝子, 藤岡寛, 西垣佳織, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 松澤明美, 岸野美由紀. (2017). 在宅生活を送る重症心身障害児の主介護者と副介護者の介護負担感の関連要因の比較-家族機能を踏まえた支援の方向性の検討-. 第 26 回日本小児看護学会学術集会 講演集. (一般演題 0-012), 日本.
- 4) 石毛美夏, 山口慶子, 小川えりか, 高野智圭, 淵上達夫, 高橋昌里. (2017). 新生

児マススクリーニング検査によって発見された学童期のフェニルケトン尿症患者の主たる養育者の体験. 第44回日本マススクリーニング学会学術集会 日本マススクリーニング学会誌, 27(2), 197(0-9), 日本.

- 5) 西垣佳織, 涌水理恵, 藤岡寛, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 松澤明美, 山口慶子, 佐々木実輝子. (2017). 在宅重症心身障がい児の主な家族介護者の社会資源活用に関連する認識の探索. 第64回日本小児保健協会学術集会 76巻講演集(一般演題 02-016), 日本.
- 6) 松澤明美, 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 山口慶子, 佐々木実輝子. (2017). 学齢期の障がいのある子どもを育てる母親の就労とその関連要因. 第37回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 017-4), 日本.
- 7) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 山口慶子, 佐々木実輝子. (2017). 在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに焦点を当てたケアモデルの構築. 日本外来小児科学会第27回学術集会, 日本.
- 8) Akimoto K, Yamaguchi K, Sasaki M, Wakimizu R. (2017). The relationships between the primary caregivers' care burden, the severity of the children under home care, and the supports received by the primary caregivers all over Japan. Tsukuba Global Science Week 2017-Public Health & Nursing Session "Challenges and Innovations in Public Health and Nursing". Oral presentation, Tsukuba, Japan.

<論文>

- 1) Yamaguchi K, Wakimizu R, Kubota M. (2018). Quality of Life and Associated Factors in Japanese Children with Inborn Errors of Metabolism and Their Families. *Journal of Inborn Errors of Metabolism & Screening*, 6, pp1-9.

<出張講義>

- 1) 水戸医療センター附属桜の郷看護学校 専門分野Ⅱ 小児看護学:健康障害のある子どもの看護(症状別) 非常勤講師.

<研究成果報告書>

「在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに焦点を当てた家族ケア実践モデルの検証」日本学術振興会/挑戦的萌芽研究 研究代表者:涌水理恵.



- 1) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 山口慶子, 佐々木実輝子, 秋本和宏. 「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第2報—」.
- 2) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 山口慶子, 佐々木実輝子, 秋本和宏, 齋藤沙織. 「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第3報—」.

#### □看護科学専攻 博士前期課程2年 佐々木実輝子

##### <学会発表>

- 1) 佐々木実輝子, 涌水理恵, 山口慶子, 藤岡寛, 西垣佳織, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 松澤明美, 岸野美由紀. (2017). 在宅重症児の養育者間の介護負担感・QOL・家族機能の関連. 第26回日本小児看護学会学術集会 講演集. (一般演題 0-013), 日本.
- 2) 山口慶子, 涌水理恵, 佐々木実輝子, 藤岡寛, 西垣佳織, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 松澤明美, 岸野美由紀. (2017). 在宅生活を送る重症心身障害児の主介護者と副介護者の介護負担感の関連要因の比較-家族機能を踏まえた支援の方向性の検討-. 第26回日本小児看護学会学術集会 講演集. (一般演題 0-012), 日本.
- 3) 西垣佳織, 涌水理恵, 藤岡寛, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 松澤明美, 山口慶子, 佐々木実輝子. (2017). 在宅重症心身障がい児の主な家族介護者の社会資源活用に関連する認識の探索. 第64回日本小児保健協会学術集会 76巻講演集(一般演題 02-016), 日本.
- 4) 松澤明美, 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 山口慶子, 佐々木実輝子. (2017). 学齢期の障がいのある子どもを育てる母親の就労とその関連要因. 第37回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 017-4), 日本.
- 5) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 沼口知恵子, 佐藤奈保, 山口慶子, 佐々木実輝子. (2017). 在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに焦点を当てたケアモデルの構築. 日本外来小児科学会第27回学術集会, 日本.

<交流集会>

- 1) 藤岡寛, 松澤明美, 海野潔美, 市川睦, 佐々木実輝子, 秋本和宏, 齋藤沙織.  
(2017). 障害児を養育する家族への包括的支援—母親・父親・きょうだい等各家族員の違いに注目して. 日本家族看護学学会第 24 回学術集会 (交流集会 6), 日本.

<研究成果報告書>

「在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに焦点を当てた家族ケア実践モデルの検証」日本学術振興会/挑戦的萌芽研究 研究代表者: 涌水理恵.

- 3) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 山口慶子, 佐々木実輝子, 秋本和宏. 「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第 2 報—」.
- 4) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 山口慶子, 佐々木実輝子, 秋本和宏, 齋藤沙織. 「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第 3 報—」.

□看護科学専攻 博士前期課程 1 年 秋本和宏

<学会発表>

- 1) Akimoto K, Yamaguchi K, Sasaki M, Wakimizu R. (2017). The relationships between the primary caregivers' care burden, the severity of the children under home care, and the supports received by the primary caregivers all over Japan. Tsukuba Global Science Week 2017—Public Health & Nursing Session “Challenges and Innovations in Public Health and Nursing”—. Oral presentation, Tsukuba, Japan.

<交流集会>

- 1) 藤岡寛, 松澤明美, 海野潔美, 市川睦, 佐々木実輝子, 秋本和宏, 齋藤沙織.  
(2017). 障害児を養育する家族への包括的支援—母親・父親・きょうだい等各家族員の違いに注目して. 日本家族看護学学会第 24 回学術集会(交流集会 6), 日本.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 公益財団法人医療科学研究所第 27 回 2017 年度研究助成

受領者テーマ「NICU から在宅生活に移行した家族のエンパワメントの実態と関連要因の把握」研究代表者：秋本和宏，共同研究者：涌水理恵。

<研究成果報告書>

「在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに焦点を当てた家族ケア実践モデルの検証」日本学術振興会/挑戦的萌芽研究 研究代表者：涌水理恵。

- 1) 涌水理恵，藤岡寛，西垣佳織，松澤明美，岩田直子，岸野美由紀，山口慶子，佐々木実輝子，秋本和宏。「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第2報—」。
- 2) 涌水理恵，藤岡寛，西垣佳織，松澤明美，岩田直子，岸野美由紀，山口慶子，佐々木実輝子，秋本和宏，齋藤沙織。「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第3報—」。

□看護科学専攻 博士前期課程1年 齋藤沙織

<交流集会>

- 1) 藤岡寛，松澤明美，海野潔美，市川睦，佐々木実輝子，秋本和宏，齋藤沙織。(2017). 障害児を養育する家族への包括的支援—母親・父親・きょうだい等各家族員の違いに注目して. 日本家族看護学学会第24回学術集会(交流集会6)，日本。

<研究成果報告書>

「在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに焦点を当てた家族ケア実践モデルの検証」日本学術振興会/挑戦的萌芽研究 研究代表者：涌水理恵。

- 1) 涌水理恵，藤岡寛，西垣佳織，松澤明美，岩田直子，岸野美由紀，山口慶子，佐々木実輝子，秋本和宏，齋藤沙織。「障害のあるお子さまとご家族のアンケート調査結果のご報告—第3報—」。

### C. がん看護・緩和ケア研究グループ

- 教授 水野道代
- 助教 笹原朋代
- 助教 山下美智代

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 金久保愛子

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 牟田理恵子

<著書>

- 1) 牟田理恵子. (2018). 第2部 実践！看取りケア(応用編) 第IV章 グリーフケア  
3. 遺族へのよいお手紙, 悪いお手紙とは?, *看取りケア プラクティス×エビデンス*,  
pp265-268, 東京:南江堂.
- 2) 牟田理恵子. (2018). 第2部 実践！看取りケア(応用編) 第IV章 グリーフケア  
4. 遺族が求めるよい遺族会とは?, *看取りケア プラクティス×エビデンス*, pp269-  
273, 東京:南江堂.

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 宗澤(根本)紀子

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 Umami Pratiwi Rimayanti

□看護科学専攻 博士後期課程 1年 量倫子

□看護科学専攻 博士後期課程 1年 曾冬艶

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 千葉育子

<著書>

- 1) 千葉育子. (2018). II. がん薬物療法を受ける患者のアセスメント, 2. 患者の理解と  
認識のアセスメント: 国立がん研究センターに学ぶがん薬物療法スキルアップ, pp39-

41, 東京:南江堂.

- 2) 千葉育子. (2018). V.がん薬物療法の副作用対策とケア, 7. 倦怠感:国立がん研究センターに学ぶがん薬物療法スキルアップ, pp147-150, 東京:南江堂.

<社会活動>

- 1) 日本がん看護学会国際活動員
- 2) 2017 年度国立がん研究センター東病院 がん化学療法看護認定看護師教育課程における講師.
  - ・ 「がん化学療法レジメンの特徴と看護」レジメンに伴う支持療法
  - ・ 「がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援」皮膚障害・下痢・便秘・末梢神経障害.
- 3) 大腸癌チーム医療ワークショップ. (2017). (中外製薬株式会社主催) 講演;「がん治療におけるチーム医療の概念と実践」グループワークのファシリテーター, 横浜, 日本.
- 4) 肺癌チーム医療ワークショップ. (2018). (中外製薬株式会社主催) 講演;「がん治療におけるチーム医療の概念と実践」グループワークのファシリテーター, 川越, 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 嶋田(伊藤)香里

□研究生 菅沢勝幸

D. 精神保健看護学研究グループ

- 教授 森千鶴
- 准教授 三木明子

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 大森圭美

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 小山達也

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 松浦彰護

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 阿達瞳

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 菅谷智一

<学会発表>

- 1) 三林里帆, 菅谷智一, 森千鶴. (2017). 統合失調症者のリハビリと自尊感情の関連, 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 宮城, 日本.
- 2) 飯塚素子, 菅谷智一, 磯崎哲也, 沼尻信子, 森千鶴. (2017). 日本看護学会論文集(精神看護)の過去 5 年間の研究傾向, 第 48 回日本看護学会—精神看護—学術集会, 136, 島根, 日本.
- 3) 菅谷智一, 大森圭美, 中谷章子, 森千鶴. (2017). 未成年大学生の飲酒の現状, 第 16 回日本アディクション看護学会学術集会, 2-1, 群馬, 日本.
- 4) 中谷章子, 大森圭美, 菅谷智一, 森千鶴. (2017). 大学生の飲酒習慣調査における未成年者の実態—WHO/AUDIT 日本語版によるスクリーニング検査を実施して—, 第 16 回日本アディクション看護学会学術集会, 2-2, 群馬, 日本.
- 5) Tomokazu Sugaya, Tomoko Shimada, Kaori Ogiwara, Akio Sakurai, Hayato Anzai, Fujiko Kudo, Momoko Aoki, Chizuru Mori. (2017). Effects of Activity Group Therapy for Children with ASD on Social Skills and Self-Esteem, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 28th International Nursing Research Congress, Dublin, Ireland.
- 6) 菅谷智一, 沼尻信子, 森千鶴. (2017). 自閉スペクトラム症児へのアセスメントツールとしての EQ・SQ, 日本精神保健看護学会第 27 回学術集会・総会, 北海道, 日本.
- 7) 田端一成, 菅谷智一, 沼尻信子, 森千鶴. (2017). 精神科救急病棟における看護師の服薬自己管理に対する思い, 日本精神保健看護学会第 27 回学術集会・

総会，北海道，日本．

<競争的資金>

- 1) 公益信託中西睦子看護学先端的研究基金「思春期自閉スペクトラム症者のストレス自覚を促す看護介入プログラムの有用性」菅谷智一(研究代表者)．

<社会活動>

- 1) 日本看護学会(看護教育)論文選考委員 2017年10月～2018年3月．
- 2) 看護教育研究学会 査読委員・編集委員．
- 3) 児童青年精神科看護研究会 副会長．

□看護科学専攻 博士後期課程3年 佐藤るみ子

□看護科学専攻 博士後期課程3年 中谷章子

<論文>

- 1) 中谷章子，森千鶴．(2018)．看護師のコミュニケーションスキルとセルフエフィカシー，専門職的自律性との関連，*日本看護研究学会雑誌*，早期公開．

<学会発表>

- 1) 中谷章子，浮谷秀一．(2017)．自己効力感の構成概念についての検討，日本応用心理学会第84回大会，東京，日本．
- 2) 中谷章子，大森圭美，菅谷智一，森千鶴．(2017)．大学生の飲酒習慣調査における未成年者の実態—WHO / AUDIT 日本語版によるスクリーニング検査を実施して—，第16回日本アディクション看護学会学術集会，群馬，日本．
- 3) 菅谷智一，大森圭美，中谷章子，森千鶴．(2017)．未成年大学生の飲酒の現状，第16回日本アディクション看護学会学術集会，群馬，日本．

<社会活動>

- 1) 首都大学東京健康福祉学部看護学科 非常勤講師．

□看護科学専攻 博士後期課程2年 石崎実

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 佐藤美央

<著書>

- 1) 眞鍋知子, 宿利真由美, 加治美幸, 佐藤美央. (2017). 映像でやさしく学ぶ 生命倫理と看護倫理の基礎(佐藤みつ子, 森千鶴監修), 第 5 巻倫理的問題の事例検討演習Ⅱ, 東京. 東京サウンド・プロダクション.

<学会発表>

- 1) 佐藤美央, 森千鶴. (2017). 統合失調症の対人交流における対人交流機能の特徴, 日本精神保健看護学会第 27 回学術集会, 北海道, 日本.
- 2) 佐藤美央, 森千鶴. (2017). ソーシャルスキルにおける認知機能と行動調整傾向の関連, 日本精神保健看護学会第 27 回学術集会, 北海道, 日本.
- 3) Sato M, Mitsubayashi R, Mori C. (2017). The Association with Social Skills and Self-monitoring in Japan, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 28th International Nursing Research Congress, Dublin, Ireland.
- 4) 佐藤美央, 青木和貴, 森千鶴. (2017). せん妄スクリーニングシートの活用可能性の検討, 第 16 回日本アディクション看護学会, 群馬, 日本.
- 5) 青木和貴, 佐藤美央, 森千鶴. (2017). 精神科リエゾンチーム活動の実態と今後の展望, 第 16 回日本アディクション看護学会, 群馬, 日本.

<社会活動>

- 1) 心理教育・家族教室ネットワーク認定インストラクター.

□看護科学専攻 博士後期課程 1年 近藤千春

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 一條晶代

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 成嶋恭子

<学会発表>

- 1) 成嶋恭子, 三木明子. (2017). 看護師のインシビリティ経験とコーピングが精神的



苦痛とバーンアウトに及ぼす影響. 第 24 回日本産業精神保健学会, 179, 東京, 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1 年 伊地知めぐみ

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 小野郁美

<学会発表>

- 1) 小野郁美, 三木明子, 吉田麻美. (2017). 女性看護師における自覚症状の実態. 産業衛生学雑誌, 59(臨増), 518. ポスター優秀賞受賞.
- 2) 小野郁美, 三木明子, 吉田麻美. (2017). 女性看護師の定年までの就労継続意向に関連する要因. 産業ストレス研究, 25(1), 181.
- 3) 三木明子, 吉田麻美, 小野郁美. (2017). 女性看護師における年代別のストレス要因. 産業衛生学雑誌, 59(臨増), 520.

<競争的資金>

- 1) 日本産業看護学会 平成 29 年度福田笑子研究助成基金「看護職員における定年後の就労とキャリアプランに関する実態」小野郁美(研究代表者).

<社会活動>

- 1) 第 24 回産業精神保健学会 学生ボランティア.

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 鈴木理恵

<学会発表>

- 1) 鈴木理恵, 三木明子. (2017). 労働者の腰痛と職業性ストレスに関する研究の動向と今後の課題. 第 90 回日本産業衛生学会, 524, 東京, 日本.
- 2) 鈴木理恵, 三木明子. (2017). 在宅ケア場面における患者からの暴力対応の実態～訪問看護師と理学療法士の対応に焦点を当てて～. 日本産業看護学会第 6 回学術集会, 東京, 日本.

<社会活動>

- 1) 第 24 回産業精神保健学会 学生ボランティア.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 佐藤佑香

□看護科学専攻博士 前期課程 1年 堀明日香

<社会活動>

1) 第24回産業精神保健学会 学生ボランティア.

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 林依薇

<学会発表>

1) 林依薇. (2017). 日本と中国のアルコール使用および使用障害の実態.文献による比較.第16回日本アディクション看護学会学術集会, 群馬, 日本.

#### E. 国際発達ケア:エンパワメント科学研究室

■教授 安梅勅江

□看護科学専攻 博士後期課程 1年 厚澤博美

<論文>

1) 林さとみ, 角田こずえ, 厚澤博美. (2017). 臨地実習オリエンテーションにおけるシミュレーション活用の教育的効果—学生の主観的視点からの評価—. 帝京大学医療技術学部紀要, 6.

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 荒川博美

<学会発表>

1) Arakawa H, Anme T. (2017). Concept Analysis of “motives of dementia supporters”. Tsukuba Global Science week 2017, Challenges and Innovations in Public Health and Nursing Workshop, 8-3 Public Health and Nursing Session. Oral presentation. Tsukuba, Japan.

## F. 地域健康学研究グループ

- 教授 坂田由美子
- 准教授 大宮朋子
- 准教授 山海知子

## □看護科学専攻 博士前期課程 2年 松村拓実

### <学会発表>

- 1) 松村拓実, 山海知子, 山岸良匡, 羽山実奈, 村木功, 梅澤光政, 崔仁哲, 大平哲也, 今野弘規, 北村明彦, 岡田武夫, 木山昌彦, 磯博康. (2017). Body mass index の循環器疾患発症に対する寄与度の半世紀間の推移, The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). 第53回日本循環器病予防学会学術集会, 口演 YIA セッション, 京都, 日本.
- 2) Matsumura Takumi, Yamagishi Kazumasa, Sankai Tomoko, Saito Isao, Sairenchi Toshimi, Hayama-Terada Mina, Umesawa Mitsumasa, Ohira Tetsuya, Imano Hironori, Kiyama Masahiko, Iso Hiroyasu. (2017). Population attributable fractions of high risk level of cardiovascular risk factors on stroke and coronary heart disease: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). Poster presentation. The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017) in Saitama, Japan.

## G. 療養調整看護学研究グループ

- 教授 日高紀久江
- 准教授 浅野美礼
- 准教授 柴山大賀
- 助教 阿部吉樹
- 助教 萩野谷浩美

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 田中理恵

<発表論文>

- 1) 田中理恵, 本橋しのぶ, 野口真弓, 今水流邦子, 金澤絵美, 森岡順子, 片貝貞江, 柴山大賀, 山崎勝也, 川井紘一. (2018). 糖尿病専門外来診療所における重症低血糖イベントの実態調査:発生の動向と要因及び誘因に関する検討. *糖尿病*, 61(2), pp51-58.

<社会活動>

- 1) 日本糖尿病教育・看護学会 研究推進委員会委員.

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 工藤順子

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 仁昌寺貴子

<論文>

- 1) 仁昌寺貴子. (2017). 膠原病患者の気持ちのゆとりに関連する要因. *日本難病看護学会誌*. 22(2), pp189-203.

<著書>

- 1) 本庄恵子, 吉田みつ子監修, 仁昌寺貴子他. (2017). 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス. インターメディカ.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 金子美雅

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 中村伸

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 糸永亜紀

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 工藤理恵

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 相川玄

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 金城一平

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 前田昌哉

#### H. 国際看護学研究グループ

- 教授 竹熊カツマタ麻子
- 助教 杉本敬子
- 助教 トゴバタラ・ガンチメゲ
- 助教 福澤利江子

□看護科学専攻 前期課程 1年 宇多美咲

<学会発表>

1) Misaki Uda, Asako Takekuma Katsumata. (2017). US-Japan comparison of the support systems for pregnant teens. International Forum: Caring For Vulnerable Populations. Rockford, USA.

## IV. 大学院生支援

### 1. 学生数の状況

#### 1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数	
		春学期	秋学期
博士前期	13名	3名	15名
博士後期	5名	0名	8名

#### 2) 在籍学生数、うち休学者数 2018年2月末現在

	在校生数	休学者数
博士前期課程 1年	13名	1名
2年	19名	3名
博士後期課程 1年	5名	0名
2年	6名	0名
3年	22名	10名
その他		
研究生	6名	
退学者	2名	

### 2. 大学院生支援委員会の活動

1) 新入生オリエンテーションの実施 4月10日、14時00分～

2) 新入生歓迎会の実施 4月10日、17時00分頃～

3) 研究成果発表のための国内外学会等への参加派遣に伴う旅費支援の提案と支援対象に関する審議

申請のあった5名について、看護科学専攻長及び大学院生支援委員で審議を行い、

旅費支援を行った。

#### 4)看護科学専攻における「学生支援対応チーム」<sup>注1)</sup>としての活動

- a. 様々な問題を抱えた学生に対するメンタル面での支援を目的とした面談の実施 随時(各大学院生支援員)
- b. 休学および復学志望者への面接・相談 随時(大学院生支援委員長)
- c. 指導および就学困難なケースへの支援と面接等への同席 随時
- d. その他

#### 5)その他の活動

- a. TA、TF、RA の時間配分
- b. 人間総合科学研究科長賞、看護科学専攻長賞候補者の推薦順位付け  
平成30年2月時の看護科学専攻教育会議において、「看護科学専攻長賞の申し合わせ」に則り、受賞候補者として指導教員より推薦された前期課程修了予定者4名、後期課程終了予定者4名から、人間総合科学研究科長賞候補として前期、後期各1名ずつ、また、看護科学専攻長賞として前期、後期各1名ずつを選出し、会議出席者より同意を得た。
- c. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信
- d. 学生支援対応チーム<sup>注1)</sup>の構成員(専攻長、大学院生支援委員)としての活動
- e. ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア委員<sup>注2)</sup>(大学院生支援委員長)としての活動

注1)「学生支援対応チーム」の役割(学生支援・自殺対策WG報告書(2011.5)から抜粋)《キーワードは、つながる、つなげる、つながりあう》

(1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。

・保健管理センター等から学生の件について連絡・相談があった場合の窓口になる。

(2) クラス担任や指導教員へのサポートを行う。

・クラス担任や指導教員から学生についての相談を受け、一緒に対応する。

(3) 所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。

・履修申請状況や単位取得状況について支援室からなるべく早く情報を得る。

・休学や復学、退学、留年などについての状況の把握と個別の支援・対応策を検討し、実施する。

(具体的には、 a) 学業や研究がうまく進んでいない学生への対応 b) 復学のための具体的な支援策の構築 c) 留年等により担任が変わる場合には、新しい担任と連携を図る d) 休学や退学が頻発するような場合は教育組織として適切な対応を図るなど)

注 2) 平成 28 年 4 月より「障害者差別解消法」の施行を受けて、大学全体として障害者等に対する合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設され、大学院生支援委員長が担当委員となっている。

#### < 次年度に向けた課題 >

筑波大学は、平成 23 年度より学生に対して直接指導を行うクラス担任又は指導教員等を支援すること並びに各教育組織において学生対応に係る対策検討等のために、各学群・専門学群、各専攻単位で「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学専攻においては看護科学専攻長と大学院生支援委員から構成されている。これまでの活動を維持すると同時に、来年度はより一層大学院生の学業や研究の完遂のための学生生活に関わる支援体制をチームとして取り組む形で強化していく必要がある。具体的には学生への支援対応チームからの一斉メールの配信、大学院生支援委員相互の情報交換を活発化し、事例に対して委員が個別に対応することはできる限り避け、複数人の教員によってチームで対応する方針を再確認するようにしたい。

TA,TF,RA の時間配分についても、学生が学業を全うするのに障害とならないように支援したいと考えている。

また、今年度は例年になく多くの看護科学専攻長賞候補者が指導教員より推薦された。今年度、申し合わせの見直しを行い、来年後以降の選考に備えたい。



今後も大学院生が悩みを抱えるも相談することを躊躇し、精神的に孤立することのないよう、できる限り迅速に、精神的な支援を継続実施していく方針である。

## V.社会貢献と国際交流

平成 29 年度は協定校である聖アンソニー看護大学、国立台湾大学、ガジヤマダ大学、ホーチミン市医科薬科大学、ナムディン看護大学、モンゴル国立医科大学、イリノイ大学シカゴ校との交流を深めた。

平成 29 年 7 月 1 日(土)には「クリニカルナースリーダーという仕事」(講師:パトリシア・トーマス先生〔グランバレー州立大学〕)、「看護のケアの質とアウトカムを向上させる CNL の実践起用」(講師:角田みなみ先生〔聖アンソニー看護大学〕)、「臨床博士課程における教育と EBP プロジェクト」(講師:ブランディ・メッサー先生〔聖アンソニー看護大学〕)の 3 つのテーマを取り上げた FD セミナーの開催に携わった。

平成 29 年 9 月 26 日～28 日に開催された Tsukuba Global Science Week では、自由テーマセッションとして「Challenges and Innovations in Public Health and Nursing」(オーガナイザー:市川政雄教授、杉本敬子助教、福澤利江子助教)を開催し、第 1 部では 6 件の講演(講師はホーチミン市医科薬科大学、ナムディン看護大学、モンゴル国立医科大学、マラウィ大学より招聘)、第 2 部では本学大学院生と学類生による英語の口頭発表の機会を設け、各国の健康問題と専門職教育についてディスカッションをおこなった。

平成 29 年 11 月 6 日～8 日に、大学院生(主に博士課程 1 年)を対象にした 2017 筑波国際共同看護学セミナー「緩和ケア」を開催した。11 月 6 日(月)には日本の緩和ケアの概要(講師:水野道代先生〔本学教授〕)、「英語のプレゼンテーション方法」(講師:トーマス・メイヤー先生)、「Engage-IL のモジュールを用いた緩和ケアの授業」、公開パネルディスカッション「学ぼう! 海外の緩和ケア事情」(講師:クリスタンティ・エフェンディ先生〔ガジヤマダ大学〕)、チャールズ・インリン先生〔イリノイ大学シカゴ校〕)、ポーリー・ユー先生〔国立台湾大学〕を、11 月 7 日(火)には学外施設訪問、キャンパスツアー、懇親会セミナー「日本の高齢者ケア」(講師:橋爪祐美先生〔本学准教授〕)を、11 月 8 日(火)には「台湾の緩和ケア」(講師:ウェンユー・フー先生〔国立台湾大学〕)、博士課程学生による研究計画ディスカッション、特別セミナー「Love Makes a Family」(講師:チャールズ・インリン先生〔イリノイ大学シカゴ校〕)を開催した。

さらに、本学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの助成を受け、平成 30 年 1 月 31 日～2 月 6 日に「看護研究者セミナーシリーズ 2018」を開催した。1 月 31 日(火)に「外国人研究者と話そう:育児とキャリアの両立」(講師:モンゴントラー・エンヘバタ先生〔モンゴル国立医科大学〕、トゴバタラ・ガンチメゲ先生〔本学助教〕、滝澤パチャラピム先生〔国際社会医学研究室博士課程〕)、2 月 1 日(水)に「看護学研究者への期待:モンゴル人医師からのメッセージ」(講師:ツェツェグマ・パーチャ先生〔モンゴル国立医科大学〕、トゴバタラ・ガンチメゲ先生〔本学助教〕)、2 月 6 日(火)に「教育の仕事と自分の研究活動を両立させるには」(講師:新福洋子先生〔聖路加国際大学〕)、同日に「グローバルヘルスにおける女性研究者の活躍と成長を支えてゆくために」(講師:ムンクツヤ・エンクバヤ先生〔モンゴル国立医科大学〕)を招聘し、計 4 件のセミナーを開催した。また、期間中に 2 件の指導・助言ミーティング「モンゴルの助産教育事情(講師:ツェツェグマ・パーチャ先生〔モンゴル国立医科大学〕)」「若手看護研究者に役立つ情報交換」(講師:新福洋子先生〔聖路加国際大学〕)も開催し、各講師より海外の知見の教授を受けた。

1 月 5 日～30 日にはタイのコンケン大学看護学部博士課程学生を、2 月 1 日～15 日にはモンゴル国立医科大学看護学部教員を、招聘研究員として受け入れ、本人の関心分野に基づく研究指導を中心とした国際交流をおこなった。

今年度も、前年度に引き続き協定校との交流を盛んに行い、学生・教員ともに非常に多くの刺激を受けた。米国、台湾、ベトナム、インドネシア、モンゴル、日本という、文化の大きく異なる国々の健康問題や看護実践について考える貴重な機会が得られ、看護教育・研究を推進する上での重要な示唆を得た。次年度も継続して有意義な国際活動を展開していきたい。